

【令和3年度 学校法人興國学園 学校評価の実施について】

当学園におきましては、学校評価（自己評価及び学校関係者評価）を実施いたしました。なお、評価の実施に関しましては、「学校評価ガイドライン」に従い適正に実施いたしました。

学校評価の内容完成

1. めざす学校像
2. 中期的目標
3. 自己評価（教職員へのアンケート形式で実施）
4. 本年度の取組内容及び自己評価（実施時期 令和3年9月）
5. 学校関係者評価（実施時期 令和3年10月）

上記の学校はすべて興國高等学校です。以上の結果をそのままホームページに公開いたします。

令和3年10月23日

学校法人 興國学園

理事長 草島葉子

尚、学校関係者評価については、「学校評価」評価委員会が、実施いたしました。

令和3年度 興國高等学校 学校評価

1. めざす学校像

建学の精神

オンリーワン教育を実践し、人間力豊かな人材を育成することを目的とする。
「オンリーワン教育とは、学力という物指は人としての一点を捉えたにすぎず、自分の長所・得意なところで夢や目標を見つけさせ、そこで人間としての力を伸ばしていく教育」

教育目標

- ・社会に役立つ力強い男子を育成する
- ・自分と関わり合う人との縁を大切にし、常に感謝の気持ちを忘れない人を育成する
- ・自分で志を立て、それに向けて地道に努力する人を育成する

2. 中期的目標

①社会のニーズに即したコース・カリキュラム運営

“オンリーワン教育”の展開の概要

偏差値教育だけでは引き出せない生徒一人ひとりの、学習へのモチベーションの向上を、既存の学校教育の枠にとらわれず、あらゆる角度から点検し、大学や専門学校との連携によって、より緻密に個々の目標達成を目指します。特に私学であることの独自性とフレキシブルなカリキュラムの実践と、教材開発や講師採用についても柔軟性を持って対応する。

②授業改革の推進

- (イ)「学校は学びの場である」という原点への回帰
- (ロ)生徒が「学びたい」思える教育
- (ハ)生徒に「学ばなければ」と思わせる教育

③生徒指導の取組強化

- (イ) 基本的な生活習慣や公共マナーの確立と指導、また授業内容の充実と発展、並びに環境の整備といった項目を重点目標として取り組む。
- (ロ) 公開授業の実施など、授業の充実と生徒の進路目標の確立に向けて、学年団と校務分掌（教育研究部を中心に）が連携して取り組む。
- (ハ) 進路指導の側面から、進学面では指定校のさらなる拡大と内容の充実を図り、就職面では、求人の新規企業開拓に向けて就職指導と第2学年の早期から企画し、より活性化した新たな就職指導の形態を目指す。

④国際教育の推進

国際的な視野を広げ、グローバルな感覚を持った人間を育てるため、出来るだけ多くの機会を提供出来るようなカリキュラム・行事を実施する。
特に海外短期語学研修や海外研修旅行を充実させる。

3. 自己評価アンケートの結果と分析

毎年、全職員から提出された自己評価、並びに次年度の目標設定を記載したシートを基に管理職との個別面談を全員に実行しています。この面談を通じて、職務に対する姿勢や方向性を互いに認識し合い、資質向上と学校運営の発展に努めています。下記の表は、今年度提出された個々のシートを整理・集約したものです。

<令和2年度 資質向上自己申告票のまとめ>

[単位：人]

No.	項目	評価S	評価A	評価B	評価C	評価D	その他	小計
①	校務分掌	2	8	50	28	2	0	90
②	担任業務	3	19	25	17	3	0	90
	副担任業務	0	5	8	3	1	6	
③	教科指導	2	23	40	18	2	5	90
④	クラブ活動	6	12	25	31	12	8	90
小計		13	67	148	97	20	15	360
評価分布状況 (%)		3.6	18.6	41.0	27.0	5.6	4.2	100%
(最上段/R2年度数値)		3.8	16.6	40.8	29.6	5.4	3.8	
(上段/R1年度数値)		4.1	14.0	31.6	40.1	6.9	3.3	
(中段/H30年度数値)		2.0	13.9	38.6	36.1	6.0	3.4	
(下段/H29年度数値)								

《表の見方》

(イ) 項目の①～④は本校の業務分類です。

(ロ) 評価S～Dは、次のように5段階評価で分類します。

- ・**評価S**：大幅に目標を上回っている。
- ・**評価A**：少し目標を上回っている。
- ・**評価B**：目標通り。
- ・**評価C**：少し目標を下回っている。
- ・**評価D**：大幅に目標を下回っている。
- ・**その他**：校務分掌等で該当の業務分担がない教員の人数

(ハ) 調査対象者は、専任教諭 63 名、常勤講師 27 名の計 90 名です。

(二) 今後の改善点

①教職員の資質向上に向けて

- ・教科間ないし教科外の教員が互いに授業見学を取り入れ、授業の質向上に役立てています。
- ・新しい取組みのための学習や資格取得等の講習へ積極的に参加しております。
- ・教育の実践に活かせることが出来る専門分野の方の講演会を定期的を実施しています。
- ・この他、新任教員の研修にも努めています。

②生徒指導・学習指導・進路指導について

- ・通学路や交通機関利用時、並びに自転車通学を含めての登下校時のマナーを徹底。
- ・クラブ活動や興國寺子屋への参加率向上を目指します。
- ・高大連携を費用面だけに留めるのではなく、高大相互に授業の連携を図り、大学進学時に単位認定を考慮する取組みを進めていきます。
- ・大学入試や社会の要請に応える力をさらに育成するため、漢検・英検受検の充実を図ります。
- ・全コース、学習能力向上の為に勉強合宿実施を進めていきます。

(ホ) 本校創立90周年から100周年に向けての新たな取組み

難関大学進学者や公務員を含む有力企業への就職など、進路指導面での充実が図られたのが90周年までであり、これから100周年に向けて、「興國には何が求められているのか。」「何を目指して行けばいいのか。」という問いかけに対し、就学年齢層の人口減少という現実を踏まえて、生徒獲得の方策や時代に即したカリキュラム編成、4年制大学への大幅な進学率向上などを迅速かつタイムリーに出し続けることが必要であると思われます。また南館の改築やオンリーワンキャンパスの改築など、生徒たちの学習環境の改善が安全確保の面から急務であると考えており、順次実行して参ります。

そして、これらを実現する為に、人材の育成が急務であり、それが、本学園の生徒育成の基礎となり、より一層の成果が得られ継続して行くことで、本学園に対する不動の信頼につながります。これらが、学園の永続・発展への道であると確信し、差し迫る現実に対して、真摯に向き合い且つ積極的に取り組んで参ります。

以 上

4. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
○	コース・カリキュラムの改革	<ul style="list-style-type: none"> ・進学アカデミアコースのバージョンアップ <ul style="list-style-type: none"> ①プレミアムアドバンスⅠ・Ⅱ類の設置準備 ②進学アカデミアのコースコンセプト再考 ・全コースでタブレット導入 iPad・タブレットPCをフル活用。専用ソフト導入し個人の能力にマッチしたプログラム提供 	コース新設、募集準備 大学進学外レベル生徒を 進学レベルに引き上げる 教材配信・オンライン、 リモート授業に対応	◎：令和4年度入試より募集開始 ○：令和3年度進学者⇒希望者 R3:59.0%⇒R4:74.7%(希望者) ○：臨時休校時やコロナ対策として 自宅学習を円滑に実施
○	教育内容充実	<ul style="list-style-type: none"> ・SAD・ADコース：国公立合格100人計画2年目 難関大学対応したプログラムの提供 ・モチベーションの向上(各種大学・弁護士事務所・病院等の見学、高大連携による大学授業の受講) ・実力テストを年2回⇒3回、外部模試必須化 	共通テスト受験者数 国公立合格者40人 必須化	◎：共通テスト受験者377名 (昨年比+23名) ○：国公立合格82名 (昨年比△9名) ○：実力テスト年3回、外部模試必須化 授業の都度課題を課しレベルアップに
		<ul style="list-style-type: none"> ・CTコース(公)：公務員受験者に対する補習の 増強+専門学校でのセミナー受講 ・CTコース(幼)：提携保育園との連携強化、 各種検定の取得強化 	公務員試験合格者数 検定取得数	◎：公務員試験一次合格者 65⇒101名 ○：保育検定合格者 1級前期合格 0⇒1名 2級前期合格 6⇒3名
		ITB科：①ゲーム&デジタルワークスコースの本格稼働 ②ICT教育の充実 ③高大連携授業の拡充 ④興國商人プロジェクト年間スケジュール に沿った予算の作成と決算の報告	独自授業実施数 タブレット活用授業の充実 連携授業講座数 ITBスターの常設化	○：4クラス合計 40/116コマ(38%)実施 ◎：リモート授業、グループ学習、ハイブリット 授業実施及び保護者アンケートに活用 ○：コロナ禍による緊急事態宣言 発出により、1大学とのみ開催 △：学校説明会等で感染症対策を 徹底してITBスターを企画 コロナ禍で今年度中常設化は延期
○	授業改善への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・先生たちの通信簿(生徒からの授業評価) ・研究授業/公開授業⇒教科指導研修会 ・各学年、コースコンセプト・カリキュラムの 見直し 	教科ごとのポイント数 研究授業開催数 見直し実施したか	○：本年度は全教科平均83.1ポイント H29年度より平均値で5ポイントUP ○：研究授業は全教科で実施 ○：新カリキュラム会議開催 見直し実施で授業力向上へ
○	国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートランド州立大学協同連携オンライン プログラムの展開 ・中期、長期留学制度の確立と促進 ・Weblioオンライン英検対策 	参加人数・アンケート 留学人数 参加人数	◎：学習進捗度・目的意識に合わせた コース別プログラム展開。学習効果、 意識向上効果、満足度もSADコース 中心に非常に高かった(計74名参加) △：コロナ禍の留学となり、制約が 大きく動きにくい。1名(R3.9) ○：保護者の関心高く、プログラム 詳細についての問い合わせも多数。 次回更に積極展開へ計36名(R3.9)
	生活指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動(Say Hello Project)の継続 ・We love you キャンペーンの継続～学級委員長& アクティブリーダーを中心に生徒の自主的な クラス運営を目指す ・カウンセリングの機能強化(スクールカウンセラー) ・駐輪場使用状況を把握し、利用の効率化を図る ・交通マナーを徹底し通学中の安全を確保する ・コロナ感染症予防対策の強化を図る。 休み時間や昼休みでの黙食の徹底。 ソーシャルディスタンスのポスター掲示 	挨拶運動の実施状況 アクティブリーダーのミーティング 回数 カウンセリング生徒推移 状況の把握 通学中の事故件数 放送での注意・喚起	○：セイホーププロジェクト継続中 ◎：各組アクティブリーダー任命 大きな行事の都度ミーティング実施 ○：カウンセリングの生徒増加 ○：心療内科医との面談増 ○：毎日駐輪場チェックし使用状況掌握 ○：自転車事故1件 ○：感染者数を極小化出来ている

5. 学校関係者評価

- ① 学校評価全体としては、全職員の自己申告評価は、目標以上となる評価 S・A・B の割合が 63.2% と昨年と同様過半数を大きく上回りました(昨年は 61.2%・一昨年は 49.7%)。引き続き高い水準の比率を確保していることは喜ばしいことでもあります。教職員の皆様の努力には日頃から感謝しておりますが、100 周年にむけて更なる高見を目指して行く過程であり、管理職の先生方とのコミュニケーションを密にし、各自の目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。
- ② オンリーワン教育の実践を図るべく、時代のニーズ、生徒一人ひとりのニーズに沿った独自性有るフレキシブルなコース設定は素晴らしいと思います。来年度入試では新興国型 5 教科入試（より強みを生かせる上位 3 科目傾斜配分方式）を新たに導入され、これ迄のアドバンスコースをバージョンアップしてプレミアムアドバンス I・II 類を新設されると聞いております。一昨年に IT ビジネス課において「ゲーム&デジタルワークスコース」を新設された事等も含め、私学としての独自性を発揮された巧みなコース運営で有り、今後の教育内容の更なる充実が大いに期待できることは、大変喜ばしいことだと思います。
- ③ 各コース・カリキュラムの改革に於いては、大学進学に重きを置き、早くから生徒の目を大学に向けるべく、高大連携を強化し続ける点は、大学進学実績含め大いに評価出来ると思います。又、キャリアトライコースでの公務員受験者に対する補習の増強や専門学校との連携強化も奏功しており、今年度の公務員試験一次合格者が昨年度比 1.5 倍以上になる等素晴らしい結果が出ております。今後も大学入試改革等々に沿った巧みな進路指導に大いに期待するところであります。
- ④ 生徒指導面でも、「We love you キャンペーン」を継続され、学級委員長とアクティブリーダーを中心に生徒の自主的なクラス運営を図られてるのは素晴らしく、引き続き実践して頂きたいと考えております。
- ⑤ 今年度も昨年度に続き、コロナ禍の中での非常に厳しい学校運営で有ったかと思いますが、マスク・消毒液の配備、全館消毒、オンライン朝終礼、オンライン授業、ハイブリッド授業の導入等々、考えられる感染防止対策の徹底に尽力され、生徒・保護者の不安感を払拭して頂いたことを、高く評価致します。
- ⑥ 今後は、100 周年を目指して、高い目標にチャレンジして頂きたいと思います。教職員組織も大きくなり、決して 1 人や 2 人の努力では、成果が出難くなっております。どうか全員の英知を結集し、チームワークの力で達成して頂きたいと願っております。

以上

令和 3 年 1 0 月 2 2 日

「学校評価」評価委員会

興國高等学校 P T A 会長 松井 次郎
副会長 藤本 善崇
辰巳 美和